



東北大学

2016年2月12日

こどもの食物アレルギー緊急時対応 シミュレーション講習会 ～児童のアナフィラキシーショック時の適切な対応を学ぶ～

2016年2月12日、宮城県立こども病院にて「こどもの食物アレルギー緊急時対応シミュレーション講習会～児童のアナフィラキシーショック時の適切な対応を学ぶ～」が開催されました。講師は宮城県立こども病院三浦克志先生をはじめ、こども病院小児アレルギー専門医の先生方が指導に当たってくださいました。

受講者は仙台市内の小学校、中学校教職員の他、児童館職員、消防職員の方々にも広く参加を募り、総勢50名の方にご参加いただきました。



|| プログラム

1. オリエンテーション
2. 食物アレルギー・アナフィラキシーについて(疫学・概論)
3. アナフィラキシーの実際の症状について
4. 緊急時に生じる呼吸状態の変化とは？
5. アレルギー症状・アナフィラキシー症状の対応について
6. 各グループに分かれて演習
7. 質疑応答



▲小児シミュレーターを使用し、エピペン®の打ち方を実演・実践

▲現場で実際に症状が起こった際のロールプレイング

エピペン®の概要について講義後は、小児シミュレーターとエピペン®トレーナーを用いて、アナフィラキシーショックを起こしている生徒へのエピペン®の打ち方について、座った状態と寝た状態それぞれで実践しました。

その後は、実際に現場で症状が出た場合のロールプレイングを通じて、アレルギー症状の判断方法・判断手段・対応方法・エピペン®使用のタイミングから搬送までの流れについて検討を行いました。

ロールプレイングではスタッフが患者の生徒役に扮し、受講者の方には、発見者の生徒役、担任の先生役、養護教諭役、校長役、救急隊等、実際の現場を想定した役を担当していただきました。ロールプレイング後は、各グループそれぞれで活発な意見交換や医師への質問があり、大変有意義な時間となりました。

|| アンケートより受講者の声

- 講義だけでなく、実際の場面を想定した、演習がとても参考になりました。救急隊の方の対応が、実際の現場の臨場感があり、良かったです。
- 消防の方や児童館の方もいて、異業種の立場から話を聞くことができ、とても勉強になりました。
- 緊急対応時の中に、アレルギーも含めて、より多くの人に、知って欲しい事ばかりでした。まわりに協力を得やすいと思いました。消防の方が一緒にロールプレイはとてもわかりやすく、今自分が何が出来そうかを考えやすかった。
- 実際の症状に即した具体的でわかりやすい講座でした。回数を増やして全職員が出られるようにすると助かります
- 実際に子ども用の模型を使い、エピペンの使い方を体験でき、わかりやすかった。1人で打つ難しさを体験で感じた
- 今回の研修を通して、お互いの考えや対策を理解することができ、今後の連携に際して安心感も持てた。

こどもの食物アレルギー緊急時対応 シミュレーション講習会

～児童のアナフィラキシーショック時の適切な対応を学ぶ～

こどもの食物アレルギーの緊急時対応に不安をお持ちの方は多いのではないのでしょうか？
確かな知識を持ち、的確に対応できるようにシミュレーション形式のプログラムを考えました。
小児アレルギーの専門医より直接お話が聞ける機会となっておりますので、
皆様奮ってご参加ください。

対象者 宮城県内の小・中学校教職員・児童館職員・消防職員

日時 2016年2月12日(金) 14:30～17:00

場所 宮城県立こども病院 愛子ホール

定員 60名

参加費
無料

プログラム：

- 食物アレルギーや緊急時対応についての講演
- シミュレータを用いての体験学習
(エピペン®の打ち方を体験します)

講師

- | | | |
|------|-------------|--------|
| 三浦克志 | (宮城県立こども病院) | 医師) |
| 北沢 博 | (宮城県立こども病院) | 医師) |
| 堀野智史 | (宮城県立こども病院) | 医師) |
| 齋藤秀憲 | (宮城県立こども病院) | 医師) |
| 鈴木千鶴 | (宮城県立こども病院) | 看護師) |
| 四竈美帆 | (宮城県立こども病院) | 管理栄養士) |

申込・問合せ

東北大学クリニカル・スキルスラボ

■E-Mail : csl@csl.med.tohoku.ac.jp

学校名、氏名、連絡先(電話、メール)を
お知らせください。

■TEL : 022-717-8867

■申込締切 : 2月8日(月)

主催 : 東北大学クリニカル・スキルスラボ

後援 : 地方独立行政法人 宮城県立こども病院

東北大学総合地域医療研修センター

